

## 女性同窓生エッセイ一期一会 第2回 石坂敦子さん（73期）

### 1 関東同窓会との最初の出会いやきっかけ

20数年前、73期で同じクラスの橋爪尚子さんから、女性同窓会交流の会に誘われたのがきっかけだと思います。千代田区のホテルで諸姉と食事をしながら、お話をさせていただき、一線で活躍する方や人生を謳歌している女性のカッコよさを感じました。

その後、関東同窓会総会に出席することになりました。勤務上、出席できない時期もありましたが、現在、同窓会運営に携わっております。

### 2 関東同窓会に想うこと、期待すること

同窓生が気軽に集う場であり、世代を超えたネットワークの場になればよいと思います。

急激な時代の変化の中、新たな情報発信や交流方法が求められています。ITに疎い私は、時代に対応した知識や技術の習得の必要性を感じています。

同窓生や母校に関する情報発信及び交流行事等をさらに充実し、同窓生の交流が深まることを期待します。

### 3 高校時代一番の思い出

1年生の体育教諭からの言葉です。

私は、4月の保健体育の授業で行われた体力測定1,000m走で、貧血を起こし、ふらふらしながら、ゴールしました。新卒で上田高校に着任した熊谷先生(?)、生徒は「中京の熊」とか呼んでいたと思います。ゴールした私に、「流した汗だけ、良いことがある。」とおっしゃいました。

卒業後、心が折れそうな時などには、この言葉を思い出しました。大学卒業後に教職に就いてからも、生徒の助言などにこの言葉を使ってきました。

### 4 近況

都立高校退職後、東京都技能振興コーナーに勤務し、令和2年春にリタイアライフをスタートしました。ライフモットーは、「丁寧なシンプル生活」で日々心掛けています。

一昨年、田舎の家を修繕し、春から秋は田舎と東京を行き来した二重生活を楽しんでいます。今は、パン教室で学ぶことや自然散策等が楽しみです。

今後は、思い出に残る地を訪ねたり、海外の食生活や文化を学んだりしていきたいと考えています。一日も早くコロナが終息し、海外での自然や生活に触れる日が来ることを願っています。

パン



蓼科高原 5月

